

8808 陽子はどちらの男の顔も見ず, . . .

陽子はどちらの男の顔も見ず, 運ばれて来たオレンジジュースに目を落としていた。

「アメリカへ行かれるそうですね。来年のいつ頃ですか？」

「まだはっきりと日は決まっていませんが, 遅くとも二月の初旬までには向こうに着かな
いといけません」

「陽子をつれて行きたいんでしょう？」

「そうしたいと思っています。でもまだ返事を聞いていません」

石浜は陽子には一瞥もくれず, 哲之を見すえて言った。

宮本 輝『春の夢』

[許容訳例]

Without looking either of the men in the face, Yoko sat looking down at the glass of orange juice which the waitress had brought her.

"I hear you're going to America. Around what time next year are you planning to go?"

"The exact date isn't decided yet, but I have to get there at the latest early in February."

"You want to take Yoko with you, don't you?"

"Yes, but I haven't had her answer yet."

Ishihama kept his eyes on Tetsuyuki without taking any notice of Yoko.

[翻訳例]

Yoko sat gazing down at the glass of orange juice that had been set before her, without looking either of the two men in the face.

"I hear you're going to America next year," said Tetsuyuki. "Around when?"

"The date isn't definitely fixed yet, but I have to be there by early February at the latest."

"You want to take Yoko with you, I imagine?"

"Yes, I'd like to. But I haven't had her answer yet."

Ishihama kept his eyes on Tetsuyuki as he spoke, without so much as glancing at Yoko herself.

■陽子はどちらの男の顔も見ず, 運ばれて来たオレンジジュースに目を落としていた。

(8808)

★「どちらの男の顔も見ず」は「どちらの男とも視線が合わないように」という意味でしょ
うから without looking either man in the face です。without の代わりに avoiding も使えま
す。また, either man の代わりに either of the two men としてもいいでしょう。なお, ここ
では without looking at either man's face は使えないと思います。look at somebody's face と
いうと, 文字通りその人の顔を見る・どんな顔をしているか見るに重点が置かれるからです。

● 「連体修飾節 + 不定代名詞的体言」(運ばれて来たオレンジジュース)

「運ばれて来たオレンジジュース」は「連体修飾節(運ばれて来た) + 不定代名詞的体言(オレンジジュース)」ですから、英語では「名詞(the glass of orange juice) + 関係詞節(which had been brought for her)」です。ただ、状況的には「運ばれて来た目の前のオレンジジュース」という感じですから、その感じを出すには the glass of orange juice (that had been) set before her とか the glass of orange juice which the waitress had brought her としてもいいでしょう。なお、the glass of ~ の代わりに a glass of ~ にすると、ここでは初めて登場する(そして、それが話題になっていく)ものとして強調される感じがします。ここは喫茶店あるいはレストランでの飲み物としてごく普通で、読者にも了解済みのものですから the でいいわけです。

◆過去進行形(was/ were + …ing)の背景性を止める

「～に目を落としていた」に過去進行形は使えません。過去進行形は、ほとんど単独では使わず、基本的には「過去進行形(…していたら) + 過去時制(…が起こった)」(毛利可信氏は「背景の過去進行形」と言っていました)ですから「～に目を落としていた」を was gazing [looking] down at ~ で表すと「下を見ているときに何か起こった」とか「…が起きた時、下を見ていた」となります。それを避けるために gazed [looked] down at ~ とも言えますが、これは「そのときだけ目を落とした」という意味にもとれちよつと曖昧になります。過去進行形の背景性を止めるのに英語として一番いい方法は、その場に合った自動詞を補うことです。ここで一番いい方法は Yoko sat gazing [looking] down… とします。別の例をあげてみると、たとえば、小説の終わりの別れの場面などで、「彼女は手を振っていた」という場面は She stood there waving her hand. とします。これは「彼女は(何処へも行かずにそこで)手を振っていた」という感じで場面に終了性が現れるのです。ところが、She was waving her hand. とすると終了性がなくなり、そのとき彼女は何をしていたかというと手を振っていたという感じになってしまいます。

■ 「アメリカへ行かれるそうですね。(8808)

★「アメリカへ行かれる」は、続く「そうですね」から予定ですから you're going to America でしょう。ただ、その次の文が「来年のいつ頃…」と言っていますから、ここで「来年」(next year)を入れて置かないと、英語では論理的に続きません。そこで「来年アメリカへ行かれる」として you're going to America next year とします。

★「…そうですね」は I hear… です。この「ね」は第三者から聞いた情報を相手に述べているだけで、特に確認を求めているわけではないので I hear…, don't I? とは言えませんし、I hear you're going to America next year, don't you? もあり得ません。それから You're going to America next year, aren't you? は、単に「行かれるんですね」で「…そうですね」の意味は出ません。

■ 来年のいつ頃ですか?」(8808)

★「来年のいつ頃ですか?」の「来年」は前の文に移動させたので、単に「いつ頃ですか?」

となります。それで、Around when [what time] (are you going)?です。なお、About what time?は「何時頃？」という意味です。

●発言者を入れる

日本語では表層上の言葉遣いやニュアンスで発言者が推測出来ますが、それでも、この文章では掴みにくいと思います。ましてや英語では無理です。それで英語に訳すには、ここで発言者を入れて

「アメリカへ行かれるそうですね。来年のいつ頃ですか？」と哲之は言った。

とするのが better です。

■「まだはっきりと日は決まっていませんが、遅くとも二月の初旬までには向こうに着かないといけません」(8808)

★「はっきりと」は definitely です。

★「日は・・・」は「(出発の) 日時」として the date です。time を使うと「時間・時刻」となってしまいます。なお、「はっきりと」を「(出発の) はっきりした日時」として the exact date (of my departure) としてもいいでしょう。

★「まだ決まっていません」は(the date) isn't fixed yet がいいです。こうすると日本語のように自分が決めるのだけど、表現としては誰が決めるのかは関係ない言い方になります。the date hasn't been decided yet とすると、他の人があるいは自分と他の人と一緒に決めるということで、自分で決める場合はこういう言い方はしません。

● [が] (逆接)

[が] は典型的な「逆接」で、but です。

★「遅くとも」は at the latest です。なお at least は「せいぜい」です。e.g. "When do you need the repairs finished?" "The sooner the better, but at least by Tuesday."（「修理はいつまでにしないといけませんか」「早ければ早いほどいいけど、(待って) せいぜい火曜日までだね」）

★「二月の初旬までには」は by early February か by the first week (or so) of February です。

★「向こうに着かないといけません」は I have to arrive there でもいいですが、英語らしい表現としては I have to be there です。

■「陽子をつれて行きたいんでしょう？」(8808)

★「陽子をつれて行きたい」ですが、前後の関係がわからないので、いろいろな言い方が可能です。「できたら・・・したい」なら You'd like to take Yoko with you. でしょう。しかし、「最後の石浜は陽子には一瞥もくれず、哲之を見すえて言った」には、You'd like to…という雰囲気ではなく You want to…のような不躾な幼児性が感じられます。

★「・・・んでしょう？」は You'd like to…なら wouldn't you?ですが、You want to…なら don't you?です。あるいは、don't you?の代わりに I suppose とか I imagine、または I guess を最後に付けてもいいでしょう。また、前に置いて I imagine [suppose] you want to…としてもかまいません。なお、want の代わりに wish も使えないことないのですが、これは非常

に formal な感じになります。たとえば、弁護士ペリー・メイスンが法廷で同じことを訊くとしたら "I imagine you wish to take..." のように言うかもしれません。

■ 「そうしたいと思っています」 (8808)

「そうしたいと思っています」は、 You'd like to take Yoko with you, wouldn't you? に対する答えなら "Yes, I would." です。 You'd like to...ではなく、たとえば、 I imagine [suppose] you want to..., don't you? の場合は、 "Yes, I'd like to." になります。

■ 「でもまだ返事を聞いていません」 (8808)

● 「でも」 (逆接)

ここでの「でも」は「しかし」という意味ですから「逆接」で but です。

★ 「まだ返事を聞いていません」は、普通、 I haven't had her answer yet. です。 I haven't heard her answer. でも決して間違いではないのですが、厳密に言うと、 hear という動詞を使う場合は、返事をもらったかどうかということより、「実際に耳で聞いたかどうか」ということが中心になってしまいます。

■ 石浜は陽子には一瞥もくれず、哲之を見すえて言った。 (8808)

★ 「陽子には一瞥もくれず」は without taking any notice of Yoko でもいいですが、「も」を表現するとしたら without so much as glancing at Yoko herself の方がより英語的です。 without so much as ...ing という表現は、たとえば、 He went out without so much as saying thank you. (彼は何の礼も言わずに出て行った) のように、よく使う言い方です。

★ 「哲之を見すえて言った」の「哲之を見すえる」は keep his eyes on Tetsuyuki です。 stare fixedly at Tetsuyuki は「見すえる」の訳としては強すぎると思います。これでは「じっと見つめて」の感じです。

● 「……[して]……する」

「石浜は哲之を見すえ[て]言った」ですが、前の直接話法の文の伝達動詞として Ishihama said and kept his eyes on Tetsuyuki では「……して言った」という意味は出てきません。 Ishihama kept his eyes on Tetsuyuki as he spoke. とします。前にも何回も出てきましたが、日本語で「A して B する」という場合は、順序を同じにして、{単位情報} の間に適当な〔関係性指標〕(conjunction)を補って、たとえば、「夕食を食べて帰る」という場合なら I'll have dinner before I come home. とするといいのです。ただ、「A して B する」の一種ですが「A しながら B する」の場合、A か B かのどちらかに比重がある場合と、どちらとも言えない場合の三つの場合があります。たとえば、「彼は食事をしながら新聞を読んだ」という場合、順序を尊重して訳すと He ate as he read the newspaper. です。実は、これは「食事をして」(A) の方に重点があると解釈した場合です。新聞を読んだということ (B) に重点があると解釈する He read the newspaper as he ate. とせざるを得ません。つまり、日本語では文末に比重があり、英語では前に比重があるので、日本文の解釈によって順序が変わるものも致し方なく、言語の固有性を破ることは、むしろ伝達を損ねることになります。